

『世界の国からこんにちは』

こんにちは こんにちは 西のくにから
こんにちは こんにちは 東のくにから

こんにちは こんにちは 世界のひとが
こんにちは こんにちは さくらの国で

十二月十八日の こんにちは

こんにちは こんにちは 元気に歌おう

こんにちは こんにちは 笑顔あふれる
こんにちは こんにちは 心のそこから

こんにちは こんにちは 世界をむすぶ
こんにちは こんにちは 日本の国で

十二月十八日の こんにちは

こんにちは こんにちは 笑顔で歌おう



『冬景色』

さぎり消ゆる みなとえの

舟に白し 朝の霜

ただ みずどりの 声はして

いまだ覚めず 岸の家

からすなきて 木に高く

人ははたに 麦を踏む

げにこはるびの のどけしや

かへり咲きの 花も見ゆ

嵐吹きて 雲は落ち

しぐれ降りて 日は暮れぬ

もしともしびの 漏れこづば

それと分かじ のべの里



「いい湯だな」

いい湯だな いい湯だな
湯気が天井から ポタリと背中に
つめてえな つめてえな

ここは北国 登別の湯

babababa
banshinshins
babababa
babababa
banshinshins
babababa
banshinshins
babababa
banshinshins
babababa
banshinshins

いい湯だな　いい湯だな
日本人なら浪花節でも
うなろかな　うなろかな
ここは南国　別府の湯



『雪國』

好きよあなた 今でも 今でも
暦はもう少しで 今年も 終りですね

逢いたくて 恋しくて 泣きたくなる夜
そばにいて 少しでも 話を聞いて
追いかけて 追いかけて 雪國

窓に落ちる風と雪は

女ひとりの部屋には 悲しそぎるわ あなた
酔いたくて 泣きたくて 震えるくちびる
そばに来て 少しでもわがまま聞いて
追いかけて 追いかけて 雪國

好きな人はいるの あなた
バカね バカな女ね 意地を はつてた私

逢いたくて 夜汽車乗る デツキの窓に
とめどなく 頬つたう 涙のあと
追いかけて 追いかけて 雪國

逢いたくて 恋しくて 泣きたくなる夜
そばにいて 少しでも話を聞いて
追いかけて 追いかけて 雪國



『津軽海峡冬景色』

上野発の夜行列車 降りたときから
青森駅は 雪の中
北へ帰る人の群は 誰も無口で
海鳴りだけを きいている

私もひとり 連絡船に乗り
こごえそうな鷗見つめ 泣いていました
ああ 津軽海峡 冬景色

ごらんあれが 竜飛岬 北のはずれと
見知らぬ人が 指をさす

息でくもる窓のガラス ふいてみたけど
はるかにかすみ 見えるだけ

さよならあなた 私は帰ります
風の音が胸をゆする 泣けとばかりに
ああ 津軽海峡 冬景色



『赤鼻のトナカイ』

真っ赤な お鼻のトナカイさんは
いつも みんなの笑いもの

でも その年のクリスマスの日
サンタのおじさんは言いました

暗い 夜道は ぴかぴかの

おまえの 鼻が役に立つのさ

いつも 泣いてた トナカイさんは

今宵こそはと 喜びました



『きよしこの夜』

きよしこの夜 星はひかり
救いのみ子は まぶねの中に
眠りたもう いとやすく

きよしこの夜 み告げうけし
まきびとたちは み子のみまえに
ぬかずきぬ かしこみて

きよしこの夜 みこの笑みに
恵みのみよの 明日の光
輝けり ほがらかに



『たき火』

垣根の 垣根の 曲がりかど
たき火だたき火だ 落ち葉たき
あたろうか あたろうよ
北風びいぶう 吹いてくる

さざんかさざんか 咲いた道
たき火だたき火だ 落ち葉たき
あたろうか あたろうよ
しもやけお手手がもうかゆい

木枯らし 木枯らし 寒い道
たき火だたき火だ 落ち葉たき
あたろうか あたろうよ
相談しながら 歩いてる



『北風小僧の寒太郎』

北風小僧の 寒太郎

今年も 町まで やつてきた

ヒューーーーン ヒューーーーン
ヒュルルーン ルン ルン ルン
冬でござんす ヒュルルルルルルン

北風小僧の 寒太郎

口笛 吹き吹き 一人旅

ヒューーーーン ヒューーーーン
ヒュルルーン ルン ルン ルン
さむうござんす ヒュルルルルルルン

北風小僧の 寒太郎

電信柱も 泣いている

ヒューーーーン ヒューーーーン
ヒュルルーン ルン ルン ルン
雪でござんす ヒュルルルルルルン